

2月28日(月)

微笑んだ目

聖書朗読 IIコリント 2:14~17

真実な者は自分のたましいに報いを得るが、残忍な者は自分の身に煩いをもたらす。

箴言 11:17

私たちは、社会の中で様々な判断をする際に用いる手段として、ことば以外のコミュニケーションを重視し、それを期待します。例えば、目を合わせない、腕組をして座って人の話を聞く、あるいは、仕事の面接の際、握手を軽くするといったことは、あまり肯定的に受け止められるものではありません。

マスク着用義務が課される昨今、私たちは相手の目から読み取ることに、以前より敏感になっています。皆さんもこのパンデミックの中、いつまでも心に残る、マスクを着けた人の親切な行いを思い出すことが出来るのではないのでしょうか。親切心から目が微笑んでいるように見える人に会うことがしばしばあります。試練の只中にあってもこうした心が晴れる経験をすると、私は「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。」(マタイ7:12)という聖書のみことばを思い出します。

私たちはどのような状況にあっても表情やことば以外の振る舞いによって、愛や親切を表わすことが出来るものです。それは、キリストの香りを分かち合う方法の一つです。聖書にはこうあります。「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。」(ヘブル13:2)

讃美歌 390

祈り 親愛なる神様。私たちがあなた様の似姿とし、愛する力を与えてくださり感謝します。どうか聖霊によって私たちがあなた様に用いられる器となり、他の人に愛を分かち合う機会を最大限用いることが出来るようにしてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ブルーデンス・C・ウィリアムス
カリフォルニア州 エスコンディド

今日の力

2022年2月28日~3月6日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月1日(火)

シーグラス※となる

(※海岸や大きな湖に湖畔で見付かるガラス片のこと)

聖書朗読 IIコリント 11:22~33

様々な試練にあうときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。
信仰が試されると忍耐が生じるという事を、あなたがたは知っているからです。
ヤコブ 1:2~4

シーグラス。私は初めて目にした時から魅せられています。青と白の濃淡で滑らかな感触。色といい手触りといいとても美しいものです。何に由来するものかと思ひ調べてみたところ、シーグラスとは海岸で見られるもので、元はガラスの破片が海へと押し流され、打ち寄せる波に打ち砕かれその尖った角が削られたものとありました。そのような結果、元はゴミくずであったものが磨かれて完璧な逸品となったわけです。

私達もシーグラスと同じです。私達らは皆、他の人にはゴミくずと思われるようなガラスの破片のような存在でしたが、神様は私達をそのようには見られず、愛してくださいました。そして、神様は、私達らのご自身に仕えることを望んでおられます。苦しみや困難を通して、私達らは主にあって完全なものとされ、主の目に美しい者としていただけるのです。

私自身とあなた様からいただいた無償の賜物
喜びにあっても、悲しみにあっても
すべて親愛なる主よ、あなた様のもの
あなた様にまみゆるとき
贖われた私の魂は永遠にあなた様のもの
-S.D. フェルペス-

讃美歌 339

祈り 親愛なる神様。私の多くの罪をお赦しください。また、試練にあっても信仰を持って耐え忍び、忍耐が養われ、あなた様にあって完全なものとしていただけることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

デビー・ハリソン
テキサス州 ナカドーチェス

3月2日(水)

御霊の実

聖書朗読 ガラテヤ 5:16~26

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。
ガラテヤ 5:22

徳とは何でしょう。徳とは善意と品格を表わす振る舞いです。私たちがどのような人物であるかはその徳によって決まるものです。徳はさらに徳を増していきます。例えば、勇気ある行動は誠意を示すことに繋がり、感謝の気持ちは心を満たします。

こうした徳は神様のご性質から来るもので、様々な徳は互いに結びついています。赦しは慈しみと愛に根差すものであり、感謝は喜びをもたらし、喜びによって心が満たされます。今日の聖書箇所には、御霊によって導かれ(18節)、御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか(25節)とありますが、この生き方は私達自身の欲望に従うものとは真逆の生き方です。神様の御霊が、私達の内に神様のご性質(御霊の実)を宿らせてくださいます。

「御霊の実」について深く考えるとき、神様が私達の内に成長させたいと願われる徳を悟られ、神様が私達に聖霊を与えて下さり、私達の成長を導いてくださっていることに気付かされます。

クリスチャンの平安は
キリストのご臨在にこそあり
霊に満たされた者は
内住する聖霊に身をゆだねて歩む
その歩みは
心捉われる聖なる歩み
-ルース・パクソン

讃美歌 499

祈り 親愛なる神様。私は御霊の実を願い求めます。私の歩みに聖霊が働いてくださっていることを覚え、そのご聖霊と足並みを揃えて歩ませてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

W・スコット・ウッドリー
テネシー州 キングストン

3月3日(木)

一 致

聖書朗読 エペソ 4：1～6

謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛を持って互いに忍び合い…。

エペソ 4：2

今日の聖書箇所はこれまでずっと聞いてきたみことばです。説教でも、教会の一致には謙遜、寛容、忍耐、そして愛が伴うものだということが語られてきました。その通りです。私は何年もこのみことばを十分丁寧に読むことをして来なかったのですが、一致を保つために私たちはあらゆる努力をするべきです。

私たちの務めは、一致を造り出すことではなく保つことにあります。イエス・キリストにあるバプテスマを受け、聖なるみからだの一部としていただいたことで、私たちの間に一致がもたらされました。

神様はイエス様の血潮を通して私たちを一つとしてくださいました。私はバプテスマを受けた兄弟姉妹たちと一つです。この一致は人種や国籍、社会的地位、経済的な状況、生い立ち、かつて犯した罪、あるいはこの物質の世にあって私たちを一つとする他のいかなるものにも拠らず、イエス様の血潮が礎にあり、主のものとなり天の御国へ行きたいと願う私たちの思いに拠るものなのです。キリストに目を向け、主の愛にあって喜び、その恵みによって愛することを通して、他のすべてのクリスチャンと共に最善を尽くし一致を保って行きましょう。

讃美歌 191

祈り お父様。イエス様にあつて私たちを一つとしてくださることを感謝します。あなた様が平和を保つてくださることを感謝します。平和を築くための要素を明確に示してくださるあなた様のみことばを感謝します。平和を保つ者の一人としていただける特権を感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

デール・ジェンキンス
テネシー州 スプリングヒル

3月4日(金)

パウロの祈りに学ぶ

聖書朗読 エペソ 3：14～21

そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。

I テモテ 2：1～1

パウロはテモテへの手紙の中で、祈りのことばに6節から8節を割いています。パウロは、父なる神様、その御子、そしてご聖霊の力のゆえに、祈りの力を信ずる祈りの人でした。パウロは一日の内かなりの時間を祈りに当てていたのではないかと思われます。パウロの祈りの特徴は、感謝を表し、神様を褒め称えているという点です。

彼は自分のことよりも他者のために祈ることに思いを傾け、神様が彼の祈りに応えて、彼らの信仰を強め、彼らが神様の愛を広め良い働きをすすんで行うようにしてくださいと信じていました。

パウロは、祈りが、神様の満たしてくださる実り豊かな歩みと密接に結びついていると信じていました。また、クリスチャンの歩みは、彼らの内に働かれる神様の恵みと力によって、神様のご栄光を表わすよう成長し変えられていく道であると確信していました。

パウロは、祈りは一度きりのものではなく、生涯継続するものであるという事を実践した人であり、祈り通した人です。私たちの真心こめた祈りは主との交わり、そして、他者との交わりを深めるものです。諦めずに祈って行きましょう。

讃美歌 308

祈り 天のお父様。私をもっと祈りの人としてください。どうか私を恵み、他者のためにもっと祈ることの出来る者とし、祈り続ける者としてください。

私の為に執り成しをしてくださったイエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

デイニー・マイズ
テキサス州 アマリヨ

3月5日(土)

死を意識して生きる

聖書朗読 Iペテロ 4:7~11

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。
伝道者 3:11

チャールズ・ディケンズの「クリスマスキャロル」を観るのが、私たちの休暇中のお決まりとなっています。

主人公であるエブニゼル・スクルージは、ケチな男で、働き手を安い給料で雇い、クリスマスの楽しい時など大嫌いな人でした。

スクルージの前にクリスマスの未来の幽霊が現れますが、その幽霊は彼の行いの結末がどのようなものとなるかを示します。それによると、人との交流を嫌い、助けを必要としている人を突き放すような彼が死んだとき、人々はほっとし、慰めを見出し、幸せさえ感じるのだらう、そして彼の残すものといえば、手入れもされない墓地のちっぽけな墓石に過ぎないだらうというものでした。

この幽霊を見たスクルージには、再出発の機会が与えられました。未来の幽霊によって、自分の終わりを見て現在を変えることとなったのです。その結果、彼は愛と喜びに溢れ、寛容で親切な人へと変えられたのです。

私たちはどうでしょう。死を意識して生きているのでしょうか。自分の死を意識することが自分の日々の歩みに影響を与えていますか。少し時間を取って人生の終わりについて考えてみてください。最後にあなたが残すものは何でしょう。パウロは、私たちに、終わりの時が差し迫っているということに気付かせ、それを覚えて日々歩むよう私たちを促しています。神様の与えてくださる力によって、清い心をもって、自制し、祈り、深い愛情を示し、人をもてなし仕える姿勢を示していきましょう。このような生き方によって私たちには目的と喜びが与えられます。そして、更に大切なのは、神様を絶えず褒め称え、神様に全ての栄光を帰すことです。

讃美歌 483

祈り お父様。永遠を見据えて日々生きることが出来るよう祈ります。
イエス様のお名前によって。アーメン。

サリー・シャンク
オクラホマ州 エドモンド

3月6日(日)

今の喜びと先への期待

聖書朗読 ピリピ 1:18~26

しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

Iテモテ 6:6

先日私は10代の息子に、先のことばかりいつも考えることなく、今を楽しめるときが来るのだろうかと聞かれました。先のこと、つまり、学校の休みや、バケーション、大学、仕事、結婚といったことです。その問いは私の心に響きました。確かに先のこと常にある、私たちは現在を通過している時でさえ、常に先の事を考えているような気がします。

イエス様のご契約は、私たちのために備えられたキリストとともにある場所(ヨハネ14:2)への希望であり、さらにイエス様は「私が来たのは羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ10:10)と約束しておられます。私たちには、今を生きることと将来の希望の間で葛藤が求められるのではないのでしょうか。

パウロは「私にとっては生きることはキリスト、死ぬことも益です。」(ピリピ1:21)と記していますが、このとき彼は今を生きることと死との間で葛藤があったのではないかと思います。クリスチャンとして私たちは今この時を喜び心満たされる経験をしつつ、永遠に主とともにある将来を切に待ち望んでいます。パウロのように私たちも、苦しいときも嬉しいときも、既に新しくされたこと、そしていずれまた新しくされることを喜びつつ、歩んで行きましょう。

讃美歌 486

祈り 天のお父様。イエス様の血潮の御力によって私たちに造り変え救ってくださったことを感謝します。どうか私たちが救いの喜びを感じ、心満たされて日々歩むことが出来るようお導きください。天の御国を待ち望みつつ得られる喜びを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジョシュ・ボイド
インディアナ州 ラファイエット